

令和3年度以降 学修成果の評価指標【学生用】

【共通】汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標
到達目標の詳細は、「キャンパスライフハンドブック」を参照。

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。
※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	マイルストーン		キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	
1) 自己意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。 ① 自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ② 相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。	小グループの活動のなかで、十分ではないが自分の思いや考えを伝えようとしている。相手の背景や立場に合った理解や、話すときの表現を工夫するまで至らないが、意見をきちんと傾聴することができる。	小グループの活動のなかで、自分の考えを伝え、また相手との違いを理解することができる。自らの発言の責任と、相手に配慮して協調した対応は少しはできる。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えようとしている。	集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、自分の発言や行動に責任を伴うことについて十分でないが理解できている。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。
2) 社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。 ① 自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。 ② 社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞いに対応ができる。	関連法令を理解し遵守している。人との約束などについてある程度は守れている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識しはじめたところである。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守るよう努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、一部は実際に責任を持った行動がとれる。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて、十分なコミュニケーションを図ったうえで、きちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。変化する社会環境に対して世界的視点の備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。
3) 将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。 ① 社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ② ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③ 自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。	日常生活の基本的な管理はできており、社会規範に沿った自己のライフスタイルについて考え始めている。自分のストレスを察知し、十分でないが、これ以上蓄積しないよう行動することができる。授業で要求されることと先を考え、知識を自立的に追及することに興味を持つことができる。学習内容や日常の出来事について、過去の学修・経験を浅いレベルで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持をある程度管理できており、社会規範に沿った自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識し、様々な状況下で変化するストレスに少しは対処でき、自分に合った方法で解消している。授業で要求されること以上に、関係する知識を追求し、自立的に学習経験を追及することに興味をもてる。学習内容や日常の出来事について、以前よりいかに広い見方ができ、過去の学修・経験をある程度の深さで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持を積極的に管理できており、社会規範に沿った自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識しており、自分に合った方法で解消しており、変化する環境のなかで生じるストレスへの程度の対処できている。授業で追求されること以上に、しっかりと付加的な知識を追求し、自立的な教育経験を能動的に追及できる。日常的出来事について以前より広い見方を示し、過去の学修・経験を深いレベルで再検討している。
【教養ある社会人としての基礎力】(知識・理解)	マイルストーン		キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	
1) 人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。 ① 人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ② 多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率※が、概ね 60%以上ある。1科目以上の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常で少しは使用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率が、概ね 70%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常で少しは使用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率が、概ね 90%以上ある。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関連性を理解している。関連する事柄に対する発言や行動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面的な関係性があること、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきが、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性の変化する環境に自ら学びを深めており、人間に活かしている。
2) 社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。 ① 社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ② 自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率※を概ね 60%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する学修をしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。まだ専門分野や社会との関係性について、情報や意味するものとは関連した解釈・結論を導くこともあるが、数学的形式の情報説明を試みている。結論まで結びついていないが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用している。単純な情報の変換は完了できる。※学生ポータルサイトに記される学修到達率を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率を概ね 70%以上で獲得している。少なくとも1科目以上から社会科学・自然科学に関する学修をしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関係性があること、また学んでいない他の分野に関する情報が少なく、関連する物事に対する発言には、時折学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を感じている。自然や社会的現象について、計算や単位などの小さなミスはあるが、数学的形式の情報がある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用し、結論を導き出すことができる。情報の変換を完了でき、その結果である科学・数学的表現はある程度は正確に使用できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達率を概ね 90%以上で獲得している。社会科学・自然科学について、幅広く学んでいる。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、専門分野や社会生活との関連性を理解している。日常の生活に転用・応用している。物事に多面的な関係性があることを認識しており、学んでいない他の領域への関心が少なからずあり、自ら部分的に理解を深めている。関連する物事に対する発言には、学修した内容を活かしている。また物事の理解を深めるための教養の必要性を認識しており、偏った見方ではあるが理解認識を深めている。自然や社会的現象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明できる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通っている。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換できる。
3) 将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義に関与する理解を深めることができる。 ① 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ② 職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることはあまり意識していない。学習内容ほか新聞記事やニュースなどの日常的話題や基礎知識と、実際の自分との関連性を時々考えることがある。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識が必要であることと理解している。個々の知識の関連性と自己との関係性について意識している。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性を認識している。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。自己との関係性について明確な役割や意義を見出し理解を深めている。将来の社会生活・職業生活にとって、一般教養・常識などの汎用的知識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性と自己との関係性を理解するには至っていない。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性に気づき、部分的に知識の獲得に努めている。
【社会人としての汎用的能力】(技能・表現)	マイルストーン		キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	
1) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率※を概ね 60%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち少なくとも1つは日常生活において不自由ないレベルにある。学修は授業のなかで完了している。日常に活用するまででないが、授業外の活動で部分的に活用している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、最低限の注意は払うことができる。用語法を誤ったりするが、基本的構成や提示において一貫した体系を使うように気をつけている。話において、中心的なメッセージは推測してもらえ、プレゼンテーションは構造的なパターンを部分的にはつくれる。自分の話し方は、まだ相手の理解の妨げとなっていると考えられる。※学生ポータルサイトに記される学修到達率を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることは十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完了できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 80%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち 3つは日常生活において不自由ないレベルにある。継続的に日常で、学修は授業内だけでなく、活用をもって学修・活用している。テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用できる。文章の誤りは減少している。話において中心的メッセージを明確に伝えることができ、プレゼンテーションは一貫した構造的なパターンでつくることができる。自分の話し方によって、相手に興味深さを与えることができる。
2) 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率※を概ね 60%以上で獲得している。計算などの分析を試みている。論拠を並べ立てることができるが、整理し、問題の焦点と関連付けていない。結論はあいまいで、筋が通らないことがある。単純に情報の変換は完了できる。※学生ポータルサイトに記される学修到達率を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることは十分とは言えない。課題の事象に対し、一般的結論は導ける。情報の変換は完了できる。結果である科学・数学的表現(式、グラフ、図、表、言葉)は部分的には適切あるいは正確に表現できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。また、分析プロセスは明快であり、論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察力に富んだパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既知の事柄のなかから推定することができる。適切な情報を、さらに進んだ、あるいはさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換できる。
3) 将来社会生活・職業生活に必要な基礎的知識を身につけ、問題を発見し解決することができる。 ① 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ② 情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ④ 職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT(情報通信技術)の基本的ツールを、十分ではないが利用することができる。情報は、自分の偏った見方から収集しており、また系統立ててまとめるまでには至らないと言える。あるいは、課題の意図に沿わない情報を含めている。課題に対する結果の内容は、論理性がなく、あいまいである。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付けたが、授業外でわずかに転用・応用できている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができるが、効果的に活用できているとは言えない。収集された情報は、ある一定の範囲から収集されており、系統立てられるものである。結果の内容は、課題の意図に沿った程度のものであり、整理ができていない。文章には部分的に論理性を欠く内容が含まれる。行動にまで至らないが、課題解決のなかから、自己の興味・関心で問題を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、部分的だが授業外で転用・応用できている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に利用することができる。効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲のある一定の深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿った程度のものであり、整理ができていない。文章には部分的に論理性を欠く内容が含まれる。行動にまで至らないが、課題解決のなかから、自己の興味・関心で問題を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、部分的だが授業外で転用・応用できている。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	マイルストーン		キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	
1) 物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。 ① 物事に進んで取り組み行動することができる。 ② 他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。チームの考えや意見などを共有するが、受動的に受入れている。他のメンバーから促されることで発言でき、意見を傾聴することでグループ活動に参加できる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果はプロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見から離れ、共通する基盤や当座の課題に目を向け直すことができる。他のメンバーの見方を言い直すか、明確にする質問をすることなどで、話し合いを促進することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らのその成果は徹底し、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見を認識し、把握したうえで取組みを続けることができる。他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどで、話し合いを促進すること、他のメンバーをチームの活動に参加させることができる。
2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せるまででないが、課題や活動のなかで自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。	与えられた課題や活動の目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定でき、それに対する行動の証を示すことができる。
3) 獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ① 経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ② これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。	与えられた課題や活動をその授業の学修内容だけで解決している。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をするまでには至らない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方ができ、自ら立てた課題を解決するまでには至っていない。	与えられた課題や活動をその授業以外の経験を含めて適用し解決できる。その課題から自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方ができ、自ら立てた課題を解決するまでには至っていない。